鳥類　＜スズメ目　ホオジロ科＞　　愛知県：絶滅（繁殖）・絶滅危惧Ⅱ類（通過）　（国：準絶滅危惧）
AVES　＜PASSERIFORMES　EMBERIZIDAE＞　AICHI：EX（Bre）・VU（Pas）　（JAPAN：NT）

ノジコ　*Emberiza sulphurata* Temminck et Schlegel

【選定理由】

日本でのみ繁殖する種で、本州の一部で局地的に繁殖が知られており、生息数も少ない。愛知県鳥類生息調査では、繁殖期に複数の記録がある場所として新城市にある「県民の森」と豊根村の「茶臼山」では、2000 年代半ばまでの生息記録はあるが、それ以降は記録がなくなっている。繁殖環境が本州の標高 700～1,200m 程度の場所ということから、調査地の最高標高が 250m である「県民の森」の個体が繁殖していたかどうかは不明であるが、「茶臼山」では調査記録以外にも普通に観察されており、県境を挟んだ長野県側でも、1980 年代までは多くが繁殖していた。同じ山系にある面ノ木峠でも記録があったが、2006 年以降は県内で繁殖期の確認記録がなくなっている。

【形　態】

全長 14cm。頭部は灰緑色で、眼先は黒色で眼の周囲に白色の細い縁取りがある。背は暗灰緑色で暗褐色の縦斑があり、大雨覆と中雨覆の先端は汚白色で 2 本の翼帯に見える。喉は黄色で胸から腹にかけて汚黄色で、脇に灰緑色の縦斑がある。嘴は灰色で脚は肉色。雌は、眼先は黒色でなく、雄に比べて頭部の緑色味が少なく、下面の黄色も淡い。

長野県, 2011 年 5 月 3 日, 杉山時雄 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

繁殖期に東三河の山地で局地的に生息し、春秋の渡りでは平野部でも記録がある。

【国内の分布】

夏期に、主に本州の青森県から兵庫県までに生息し、局地的に繁殖する。本州西部以南では冬期の記録もある。

【世界の分布】

繁殖地としては日本のみが知られ、本州のごく一部で繁殖する。冬期は台湾、中国南部、フィリピン北部に生息する。

【生息地の環境／生態的特性】

本州の山地にある疎林で、局地的に繁殖する。林縁の低い樹枝上に、枯草などでわん形の巣を作り通常 3～5 卵を産卵する。チヨ、チヨ、チョイピーピリッピなどと囀り、地鳴きはヅッ、ヅッと聞こえる。春秋の渡りでは、平野部の林や河畔林などでも確認されるが、近年は極めて希になった。

【現在の生息状況／減少の要因】

現在の県内で、繁殖期に生息の可能性があるのは茶臼山周辺のみと思われるが、県境を挟んだ長野県側でも全く記録がなくなっている。茶臼山から繁殖期の生息がなくなった要因として、観光開発による生息環境の変化が挙げられる。なお県境を挟んだ長野県側では、最近本種に代わって、近縁種でより標高の高い場所で繁殖するアオジが繁殖期に確認されている。以前本種が生息していた場所の周辺で観察されており、今後どのような変遷をするのか観察を継続したい。

【保全上の留意点】

県内で稀有な環境である高原の牧場は、観光資源としても重要な環境である。その観光資源を活かすためにも、本来その環境に生息していた生物の生息環境を保存し、さらには再生する努力も必要と思われる。

【特記事項】

1930 年代には段戸山西川地区で、本種が「一般に繁殖していた」という記録も残されている（夏目, 1936）。

【引用文献】

夏目五一郎, 1936. 段戸山の鳥(二). 野鳥, 第 3 巻第 7 号. pp.20. 日本野鳥の会, 東京.

【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, p.370. 文一総合出版, 東京.

（高橋伸夫）